

平成20年度 第2回 焼津市図書館協議会 会議録

1. 日 時 平成21年2月4日(水) 午後1時30分から4時00分
2. 場 所 大井川図書館 研修室
(その後 和田公民館図書室 → 東益津公民館図書室 → 焼津図書館へ移動)
3. 次 第
 1. 開 会
 2. 教育委員会事務局長の挨拶
 3. 図書館協議会委員自己紹介
 4. 図書館職員自己紹介
 5. 内 容 (詳細は次に記載)
 6. 閉 会
4. 内 容
 - (1) 焼津・大井川図書館の概要について
 - (2) 大井川図書館見学
 - (3) 和田公民館図書室、東益津公民館図書室見学
 - (4) 焼津図書館見学
5. 出席者
 - (委 員) 松永千壽子会長、山川善子委員(職務代理者)、紅林和則委員、鈴木登次委員
岡村洋子委員、村松郁也委員、柴千寛委員、杉本みゑ委員、富弥悦子委員
(杉本和也委員 欠席)
 - (事務局) 實石博之事務局長、青島光子焼津図書館長、大石敏正大井川図書館長、
中村芳郎大井川図書館係長、堀内千穂焼津図書館係長、西谷和之主査、山梨
のぞみ主査

※ 傍聴者—今回の協議会は、市内図書館関係施設見学を中心に行ったため、
傍聴者は募集しなかった。

1. 開 会

2. 局長の挨拶

合併後、初めての協議会委員の顔合わせということで、本来なら教育長がご挨拶申し上げますところであるが、他の公務と重なってしまったため、代わりに事務局長である私が挨拶させていただく。合併から早いもので3ヵ月が経つが、すでに昨年12月には松永会長立ち会いのもと、3名の旧大井川町立図書館の委員の方々は、教育長より委嘱を受けている。本日初めて10名の全委員(1名欠席)にお集まりいただいたが、

平成 21 年 5 月の任期までよろしくお願ひしたい。

合併の後、清水新市長の体制になり、公約として病院、アクアス、学校の耐震化の 3 つの問題が挙げられた。旧大井川地区は、学校の耐震化はすでに 100%であるが、旧焼津地区の耐震化は遅れているため、今後 3~4 年間で耐震化 100%を目指すつもりである。

平成 22 年 1 月には、焼津・大井川の両図書館のシステム統合が予定されているが、これにより利用者にとっては大変便利になると思う。

またここ数年、図書館運営については、指定管理者制度の導入が検討されていたが旧焼津市の協議会より、図書館に当制度の導入はそぐわないという答申をいただいているため、それを尊重して今まで通りすすめていくつもりである。

合併により焼津市に 2 館の図書館が存在することになったが、市民にとってより良いサービスが提供できるように、また、より良い形で運営できるよう努力するので、今後ともよろしくお願ひしたい。

来年度は当協議会を、他の教育施設を利用して開催することも提案したい。

3. 図書館協議会委員自己紹介

<委員名簿に沿って、会長より自己紹介をお願いする。会長には挨拶も併せてお願ひする>

会 長 12 月に旧大井川図書館の 3 名の委員をお迎えし、新たに 10 名の協議会としてスタートした。互いに良いところを出し合って新たな良い方向に向って行かなければならないが、今までの旧焼津、旧大井川という枠にこだわらず、大きくなった焼津市の新たな方向を求めていかなければならない。

公立図書館は、全国で連携が取られているため、他市他県から学ぶことも多いが、本市の考え方や運営方法が、他市他県を動かすこともできる。日本の公立図書館を守り育てるという大きな視野に立って活動していくことが大事。近年、成熟しない大人が多いため、信じられない事件等が多いが、そういう時だからこそ、できるだけ多くの人々が本に接する機会を持てるよう努力しなければならない。この点において図書館の役割りは大きいと思う。

また読書は、ひとが人間になるために大変大きい役割を果たしていると多くの人が語っているが、ここにお集まりの皆様も日頃同じように考えられていることと思う。県の図書館大会で聞いた情勢報告やライブトークの内容から、年々図書館に対する要望が大きくなっていると感じたので、これから一層図書館協議会の委員の皆様のご尽力に期待するところが大きいと思う。

本日見学する大井川図書館は、数年前訪れた時に、落ち着いていて温かい良い図書館だと感じたが、そこをわが市の館と呼べるのは嬉しいことである。今日の見学が、次ぎに活かされるよう新たな発見をして帰りたいと思う。

委 員 焼津市と大井川町が合併で一緒になったので、足して 2 で割るということではなく、足して 1 つの大きな焼津市の図書館として、良いほうに変えていきたいと思う。焼津と大井川で仲良くやっていきたいので、よろしくお願ひし

たい。

＜この他の委員は、名前を名乗るだけの簡単な自己紹介であった。＞

4. 図書館職員自己紹介

＜焼津図書館、大井川図書館の順に館毎自己紹介を行った。＞

5. 内容

(1) 焼津・大井川図書館の概要について

＜係長より、配布資料を見ながら両図書館の概要について説明を行った。＞

焼津係長 (2 ページの図書館組織概要を見ながら)

両図書館は、教育機関という位置づけであり、教育委員会の事務局に所属し、焼津図書館と大井川図書館は同じ焼津図書館ではあるが、各々独立した機関として位置づけられている。

(3 ページの比較表を見ながら)

両館の比較表を作成したが、統計データは平成20年3月31日現在となっている。開館年は、焼津図書館が昭和60年6月、大井川図書館は平成4年11月で、焼津が4館からなる複合館であるのに対し、大井川は単独館となっている。資料購入費は、焼津が23,874千円に対し、大井川は8,985千円。蔵書数は、焼津が247,402点に対し、大井川は109,323点である。職員数は、焼津が正規職員7人、臨時職員5人の合わせて12人で、うち司書が7人で、大井川は、正規職員4人、臨時職員4人の合わせて8人で、うち司書が2人となっている。

貸出冊数は、焼津が555,283点で、大井川は178,363点で、貸出者数は、焼津が123,080人で、大井川は52,397人となっている。図書館登録者は、焼津が72,391人、大井川が32,033人で、予約リクエスト数は、焼津が25,900件、大井川が6,142件である。

また、自主事業については、別表に従ってあらためてご説明する。

焼津係長 (4 ページの焼津図書館事業を見ながら)

今年度の事業でこれから実施予定のものを中心に説明する。1月までに実施予定の事業は、すべて終了している。

2月28日、3月1日の両日、除籍資料の無償提供事業を行う。これは、図書館で除籍になった図書・雑誌等8千点余りを無償で市民に提供し、有効的な活用を図るもので、1人に付き図書10冊、雑誌5冊を限度とする。なお、この事業は、今回の他に9月にも実施されている。

3月7日には、年に1回のこどものつどいが文化センター小ホールを会場に開催される。人形劇や影絵劇などを上演し、子どもたちの豊かな感性を育てることを目的とする。今年度より、大井川のボランティアグループも初めて参加する。

大井川係長 (5 ページの大井川図書館事業を見ながら)

次に大井川図書館の事業について説明する。1月21日から1月30日まで蔵書点検を行ったが、そこで除籍になった図書・雑誌を無償提供する事業を3月7日～22日まで研修室で行う予定。2月14日には図書館の展示室を会場に人形劇を楽しんでもらう「こどもまつり」を開催し、22日には絵本作家・浜田桂子さんをお迎えして講演会を実施する。また3月13日には読み聞かせボランティアの知識を深める内容で、読書普及講座を開催する。

焼津係長

内容の(3)、和田公民館、東益津公民館図書室見学の前に、資料の6ページをご覧くださいながら、事前に2館の図書室の説明をさせていただきます。

焼津市内には9館の公民館があり、その内8館に図書室があるが、公民館図書室は、図書館まで来館するのが困難な利用者のため、また利用者の拡大を図るために、図書室に定期的に配本を行うことにより、利用者の利便を図ることを目的とする。

具体的な業務は、担当者が週に1～2回図書室を巡回し、その時に図書室の利用者からの予約やリクエスト用紙を受け取り、図書館や他機関との相互貸借などにより要望に応えられるよう努めている。また8館の公民館図書室の内、焼津、東益津、大村の3館が本館（焼津図書館）とオンラインでつながっているが、それ以外の5館はハンディターミナルという小型コンピュータで貸出や返却を行い、そのデータを担当者が回収し、時間差で焼津図書館のホストコンピュータに落としている。ハンディターミナルで貸出を行っている館は、返却してもしばらくの間データが書き換えられないため、利用者に不便をお掛けしている。

今後の対応であるが、すべての市民が均等に図書館サービスを受けられるようにするため、将来的にすべての公民館図書室を図書館システムとオンラインでつなげる計画を進めているところである。

* 図書館協議会委員の皆様は、大井川図書館の見学終了後、公用車で和田・東益津公民館図書室の見学および焼津図書館の見学へ向かう。